

「全鍍連」 2020年 4月号 巻頭言

全鍍連 経営委員長 吉田 幸司（有吉田商店 代表取締役社長）

「いつ何が起きてもおかしくない？」

全鍍連の諸先輩方々また事務局の皆様そして経営委員会はじめ会員の皆様にはいつも大変お世話になっております。

昨年より経営委員長を仰せつかっております埼玉組合の吉田です。

まだ若輩者ではありますが、みなさまのご協力をいただき全鍍連の事業に貢献できます様頑張りたいと思います。

さて、昨年の大規模な水害や、この1月からの『新型コロナウイルス』の騒動で皆さん大変なご苦勞をされていると思います。

メディアでは、観光地の人の激減、マスクに始まり除菌用のアルコール、最近では一部の地域でトイレトーパーやカップラーメンまで品切れだと報道されておりますし、産業の方でも中国からの部品供給が止まって生産が遅れているとの模様で景気に多大な影響を及ぼすことが懸念されております。

昨今の数十年に一度と言われる予想もしていなかった突然の災害に対して皆さんはどのように考え、どのように対処しておりますでしょうか？

最近では、我々の取引先からもBCP（事業継続計画）対策についての問合せや、アンケートの要請が増えてきております。

つい数年前までは自分も『なにか起きたらその都度考えれば良い。いつ起きるか判らない何かに怯えていてもしょうがない。』と考えておりましたが、毎年のように何かが起きているのが現状であり、会社の信用そして存続が・従業員が・家族が危機的状況に陥ることを考えると不安でしかありません。

今回のコロナの騒動が今後どのように推移していくかはわかりませんが、まずはやれることをひとつずつこなしていくしか有りません。各組合や団体の迅速な対応を見習い、当社でも不要不急の外出は控える様呼びかけ、除菌用アルコールを準備して少しでも不安要素を取り除けるよう行動しております。

いろいろと課題はありますが、幸いなことに今は全鍍連をはじめ組合活動に参加することによって、過去の災害を乗り越えてきた先輩方から教えを請う事もでき、同業の同世代にも相談が出来る仲間がおり、全国のさまざまな情報を共有できるネットワークがあります。私見ではありますが、一人で不安を抱えるのではなく、前向きに皆様の協力を得て取り組めば難なく乗り越えられるような気がしてきております。

また、これからもまだ不測の事態は起こりうると考え、各企業や業界で協力して BCP を含め生き残るため、不安を軽減するための課題に取り組まなければならないと強く感じております。

最後になりますが、今後とも各方面皆様方のご支援をお願いし、また御多忙の為なかなか参加出来ない会員様も多いと思いますが、是非時間を作って参加していただき、いろいろなご意見をいただきたい。そしてこの不測の局面を業界全体で乗り越えていきたいと思ひます。交流会に出てもコンパニオンとお酒を飲むだけで何にも考えてない社長さん、チコちゃんに叱られますよ！

(因みに登場の女性講師は経済ジャーナリストの内田裕子氏。チコちゃんじゃありません。念のため。)